

円通寺史跡公園

菊池市中心部の南東に位置する、旭志の集落にある円通寺史跡公園は、かつて菊池氏の庇護を受けた有力な宗教施設であった円通寺の跡地にあります。この寺は、菊池氏の祖である菊池則隆が 1070 年に菊池地方に到着した際に、円通寺を京都から移転させてこの地に創建されたと考えられています。当時、旭志は菊池氏の領地の境界線上にあり、円通寺は城下町である隈府の防衛に一役買っていたと考えられています。

円通寺は、1274 年と 1281 年の蒙古襲来を撃退したことで知られる英雄、菊池武房（1245-1285）の時代に強大な寺院に成長しました。武房は円通寺に大きな寺領を与えました。この寺は 16 世紀まで栄えましたが、菊池氏の影響力は衰え、領地は減少し、やがて敵対する武将たちによって征服されました。

1800 年代になると、円通寺と菊池氏の歴史に対する地元の関心が再び高まり、円通寺は 1830 年から 1844 年にかけて再興されました。池と伽藍、そして現在の公園にある石造りの門が加えられたのはこの頃のことです。県指定重要文化財にもなっている石門は、阿蘇山の赤味を帯びた火山岩で造られており、優雅な曲線を描く庇のある装飾的な屋根が特徴的です。シャクナゲ園と仏像が点在する丘陵の遊歩道も公園の一部で、この遊歩道は有名な四国八十八ヶ所巡礼を模しています。